

文會雜記

四

增5
463
4



門 1 5  
463  
卷 4



一詩書ノ小序ヲ春臺ノ信セラルルト如何アル(キト君修云



(リ)禎モ無用ノ物ナリト覺ユルナリ)

一但来ニ至テ情ノコハキ人ナリ墨水ノ懐古ヲ子式作りテ白

鷗ト云ハマハリ都鳥ト云タルカヨシトナリカレイノ上ニ涙

ヲトシテト云モ墨水ノナリト但来云レシ由子式伊勢

物語ヲ見シニカレイノナリハ橋ニテ候トイハ氏但来ソレハ

覺違ナリトテ合矣セラレサリシトナリト君修カタ

レ)

一芳賀勝之進ノ碑碣ヲ士寧書レタリ勝之進不人柄  
ナルヲホメ過タレハ設墓ノ辞ナルヘシ南郭ハイカニモホ  
メ過サスヨク書ルコトナリ

一韓退之トハ誠ノ有リスガタニ書タルモノト君修語レリ

一南郭知名幸八ト云リ晩年ナリ子允ノ方ヘ搗謙来ラレ

テ咄ニ只今祖来ニ逢タレハ祖来ノ云保山ノ方エ行タレハ  
保山松平美濃守吉保也致仕ノ後別業ニ  
居ラレタル処ヘ祖来行レタリ服部幸八詩ヲ出メ見セメリヤ

評判シクルカ先頃二三度学問ノ咄シヲシタレハ詩ニスミタ

ルト及カタシ無双ノ才子也ト云ルトナリ其年紀ヲラス南

郭三十斗ノ左右ナリト君修語レリ

一三月四日美濃館ニ暇乞ニ至ル仲英ト寛裕ス仲英ハ根劬

西宮ノ人ナリ安藝ニユク時園山モ通リケルトナリ山水海ナ

トノ詩ニ入ト歌ニ入ト景ノコトヲ仲英倫セラル

一同十日君修暇乞トテ来訪寛裕ス十三経十七史ト臧書

セシトナリ臧書ニ夥シクナリシトナリ杜氏通典ヲ持タルト  
語レリ

一宝曆五年四月二十九日魚田清藏名直字温夫  
巨師人訪来ル寛治ス

三宅大捕ノ友人ナリ又十七年前東都ニユキテ南郭モ

屢謁會ニモ出ル翼之ニモ別テ心安クシケリ論語ノ注ヲ  
作リタル由序文ヲ禎ニ乞

一温夫云東涯ノ遺文下清書ノ刊シカ、リシトナリ周易

経翼ハ通解ハ早毘カ、リタリマカテ出来クツヘキト也

一紀州ノ伊藤玄藏候命テ五経ノ解出来タリ詩書

政易春秋礼記ナリ影シク大部ノ書トナリシ也

一温夫名物六帖ノ写本ヲ残ラス所持スラスヘシト云リ又

日水律モ有リト也

一丈東世語ノ出处ヲ萃山院内府殿ヨリ書出シタマヘリ

ト温夫語レリ

一温夫東涯ノ唐宮抄ハ近衛公ヨリ御サハリニテ刊行ニマ  
トリタルトシ

一園白駒儒林傳ヲ作レリ大友皇子ヲ首トシ近年ノ儒  
者マケニ至ルトナリ贅語ハ韻ヲフミタルモノナリ大東世

詔ヲコナシタル書ヲ白駒作りシト温夫詔レ

一文補世説解ヲコナシテ書ヲ作ルトナリ詔レリ

一温夫秘笈ヲ藏書スト云ヘリ

一温夫云宋史ノ司馬温公傳殊ノ外面白フアノマウナル傳ハ

古今見スト也

一温夫云千子新編詔孝雍之篇マテ寫藏ストナリ明

霞稿ハアマノ面白キ文ニ非スト論セリ又論詔考ノ中

ニ尤ナルトモアリトナリ又開口新詔ニテ白駒ヲ見ラ

トシタルト也玉屋喜右門ハヨキ學者ナリ

一左傳杜注ヲ誤ハサマニ發明多シ左傳ヲ解ハル部ナレトモ

左傳ヲトクニ見ヨキト温夫云ヘリ

一宋人ノ説ニ韓柳トセス韓本子トシタルモアリト温夫詔レリ

一温夫云春臺ノ産詔ハ珍ラシキスクレタル文ナリ又四

書新知日録ハ奇書ナリト云ヘリ制度通モ校合シタルハ

ヨキ本アリシト也

一温夫云今ノ學者ニ經濟サセハ大ロダハ用ニタツマシ能沃リ今

ノ書ハトウ見テモ道理千古ニ勝レタルト覺ユルト也

一白石ノ江開筆談ハ勝レタル筆語ナリ其後ノ筆談ハ  
サマテ悪シト温云ヘリ

一胡氏傳ハ酷史ヲサハキ孔子ノ本意ニアラストナリ温夫イ  
ナリ

一林周今ハ江戸ヨリ附録存非ノ刊本出テ序ニサンニ云レタルユヘ  
門人皆アナリトナリ合レタルト也

一諸子同事異言サテ一題号ヨシト温夫賞セリ

一温夫云羅山文集ハサンニナレトモ當時ノ事實ハ碑志ナ  
トニテ見ルナリ菅丞相ノ傳ナトハ成ホトヨク書ト覺ル  
ナリ

一佐藤五郎右エ門直方モ大石内藏助ヲ非トス大抵春臺ノ論  
ヨリ出タリ春臺ノ論ハ服モスト温夫語レリ

一肥後熊本ノ學校ハ二本ニ建ラレシ由温夫語レリ

一堀正超ハ物故セリ甥ノ負今跡ヲツキシトナリ

一岡千里カ小説精言ノ点ハラシスマシトナリト云リ又文獻

通考ヲ小本ヲ藏スト温夫語レリ

一經解六百卷ノ中三礼圖ノ勝レタリトス外ニハ經解ノ中ニ

礼記ノ補止アリイカニモヨキ書ナリト温夫語レリ席上

腐談ト云モノヲ著セシト語レリ

一四教文集解ノ摺旨抄ト云物ニテ釋氏ノ大意ヲ知ルト服中

行ノ語レノ出定後語モ大カタコレヨリ見出シタルマウ也

出定後語ハ珍ラシキ奇書ナリト中行モ評判ナリ

一杜律匠解和本ニテリ) 郡夢粥ヨリハヤ増シタルマウナリ中

行ノ語ニ重加統集ニ湯武ヲコナシタル論アリト中行語

レリ

一浅見重次郎佐藤良左衛門兩人ハ齋齋ハ神道ヲ止ラレヨト

異見セシ故ニ勅セシトナリ中行語レリ

一正字通ハ殊ニ字アママレト中行ノ語レリ

一侍經ノ統約ノ奥ハ林文之進父ノ巨ナリ羅山同姓ナリ藏

書多シ仁存モ文之進父ト懇ニテ書物多ク見ラレタルト

温夫語レリ

一同年九月十九日三宅子未終又礼記隨分ニ注ノヨキモノアルカト捜索シトモ見ヘス揚脊ノ筆記モ大全ノ中ヲセサリシタルマテナリ

一元猷云明世説ニ臭ツケシ人ハ那波九郎左衛門ト云高豪家ナリ道圖ノ同姓ト云一如何アラシ又那波与藏ノ字問アラシ相識ニミアラス左傳ノ新刊ノ校合如何アラント云ヘリ

一元猷云仁斉ノ孟子古義殊ノ外ヨク出来タリ仁斉孟子一部ニテ何レヲモ押タルト云リ稍カ見ト符同ス

一品字箋ハ頭字カラ引出シテ為ニ作レリ康熙字典字ノタラス処ヲ集ノクルマツナリ然トモ字典ノ中ノ一モ出セリ

首卷ニテ字ノ引マウノ法ヲ互テアリト元猷語レリ

一元猷云米川儀兵衛ハ殊ノ外古篤キ人ナリサレトモ著述ハナシ篤行ノ先生ヤリト語レリ

一温夫ノ著セル席上齋談ハ隨筆ナレトモ少シ見識モアリ

岡白駒開口新語ニテ岡子ノ見ヲトス一稍カ見ト同シ六十二ナリ

テアノヲカシキ咄テヨキトセシ一下卷ノ事ナリ又左傳ノ



朱申句解ナルホトヨク覺ルト九献云リ

一元献云鵝湖問答ノ事イカモ学部通辨ニ出ス外ノ書ニ見ヘ  
又トナリノ書影近衛殿ニアリシヲヒソカニ見シトナリ杜氏  
通典モアレハ價金三十兩モストナリ

一通鑑紀事本末ハ甚ヨキ書考閱ニヨキト覺ルナリ又閑情  
寓奇ヲ見レハ風流ナルナリ李阜告トミ之然トモ集ノヨミテ  
ハ又左様ニモナシ清朝ノ文先コレヨリホカ見ル所ナシト也  
又廣輿記地志トテ人ニヨリトナマハシタルモノナリト元

献云史ノ志類ナト會読ストナリ唐書ノ志モ享甚誤ル  
ト云リ又通鑑ノ書法祭明朱子ヲ九原ニ起シタラハア  
ノマウナリハ氣カツカツト云ルヘキト云ナリ禰カ見ト符  
合ス又史記モ未定ノ書ト云ナリ予カ見ト符合ス又水經モ  
ナク見タリ本甚不自由ナリト云ヘリ

一韓使聘有升仲龍明和元年岡山来ル仲龍云物叔達ハ  
始終程朱學ニテ終ラレタリト也

一長澤不怨齊後其室ヲテ子迪娶リキ松江炭ニ住ヘリ

ト仲竜語レリ

一田俊卿ノ長女ハ詩モナリ楷書モヨク書キヤアル人ナリ一目  
眇スル由仲美ノ世語シテ福島茂右エ門ノ長子ニ嫁ス福島  
氏甚各ナル人故其家得ララス仲美方ヘヒキトリテ  
世語セラルトナリ福島氏名ヲ子軒ト云リ絶句解考  
證ナトナリモ板行ス其室人スリ出ストナリ

一美仲文集ハ帆丘遺稿トテ十卷斗モナリ美仲増上寺門前  
廣ハ路ニ家ヲコロリ古講シテアリケルト也文言ノミ云ケ

レトモ亦羽先生ト云ケルト也美仲没後文集梓行覓束  
ナシト仲竜云リ

一中龍云熊本ノ学校ハユヅリ秋。専コレヲ至ルトナリ  
一仲竜云李滄溟尺牘南郭ノ講ヲ別書ニシタルニ成僧  
寫藏ニカリテカスヘシトナリ人芟荷園稿ハ版仲英  
校斗スト語レリ

一中村新藏群書總論ヲ著ス十卷アリトナリ板行モスヘ  
キ内長逝春臺刊ヒラレタル古文孝經ヲモソシルトナリ

仲龍語レリ

一物叙達ノ子 ハ又字アリ子貢詩傳ノ字缺ヲ補ヒ板行  
スヘシト云中ノ没スナリ仲龍語レリ

一明和二年己酉年九月十三日赤穂赤松鴻字國鸞未訪  
倍称大川良其平其男名勲字大業倍称周藏ト云  
國鸞云松岡玄達カ東涯北村可昌會ノアリタルトキ  
徠翁ノ天狗ノ説ヲ人ノ見セタレハ二年駁甚シ東涯一人黙  
シテマリケレハ二人何トテコレヲ論セラレサルマト云ハ東涯

人各有所見何事ニ訛評甚シキマト云レテ二人色ヲ変  
シ奥サノクルトナリ

一國鸞云三禮義疏康熙帝ノ教撰ナリカスヘシトナリ李  
龍眠カ画ノ聖像ノ掛物モカスヘシト云ハリ

一國鸞ハ字カ子新ノ方ニ行テ初テ字問ヲシタルトナリ  
子新州稿ニ越後行山忠藏ト云人皆アツカリテマリ今  
忠藏大坂ニ在リトナリ

一子新ハ字問ノ奇僻ナルノミナラス言行トモニ譏激ナルト

ナリ色ノ物語ヲ寫詳ニ語ラレキ

一史記ノ倉公傳スラス醫ノ方ニテモスマスト也コレハ赤松子醫業ヲナシタル人ニ此論アリ大塚湯ハ黃蓮解毒湯ナリト後世ニ云ハトモタシカナル證モナキト國鸞語レリ

一松園玄達ハ初衛齊門人ナリ後仁齊東涯ニ十四年ツキテ居ラレタレトモ始終未ダ學ニテスコシタルト國鸞語レリ

一管子ハ篠三弥矣付タルトナリ國鸞語レリ

一藤江平久ハ見不文ナリ赤穂ニ四十六士ノ碑アリ其文ヲ

平久書タリ不成語ナルトナリト國鸞語レリ

一赤穂山上ニ兒寫備後三郎高德ノ墓レテ五輪ノ石塔アリ

三郎ノ伯父僧ニナリタルカ建タルト云傳トナリ大

平記ニシルセシニ符合ス國鸞語ナリテ識シ列載スト

ナリ國鸞語レリ

一毛奇齡ト云清人ヲ詩文ナ快アリ大家ト見ヘタリ

國鸞語レリ

一水足平之進ト秋子羽ハ後房ナリ子羽ハ丑絶ヲ殊ノ外

自負ナリシトナリ肥後侯ノ文学教養蒼ノ子未学  
ナリト又東都ヲ居修子紳ナトモ屢國鸞ハ出會セ  
ラレシトナリ

一故赤穂侯内匠及殿ノ士大高源吾カ母ハ胎リタル書ハ感  
情アルトナリ又弓注ノ某カ高家ヘラノリタル状モアリ  
誰ハ憶病者ナトニ散ハ書ニアリイッレモ後世ニ名ヲ残シ  
タキ心ナリト見ユルト國鸞語レリ

一居修云速ニ約ニカルヘシ博洽ハ略備レリ文ハ博大ヲ尚

ヘシ左ナクハ左氏司馬又孟荀老莊ノ談理モナルマシ  
多ク作ラハ自然ニ越ラ生スヘシ詩ハ李千鱗ナトノ  
中ヲキハノテ朝夕諷詠其精犀ヲ集ヘシ

一奉壽 吉備世子尊夫人歌

さしうゑや岩ちす松の根さしこをばけり  
よめは ぬをさしこ

コレハ荷田満ト 命アリテ詠マシ処ナリ吉備ハ備前備  
中備後未不分時ノ國名ナリ岩ナスハ磐石梨別郡ナリ

且ナラハ如ノ美岩トスハ如岩ナリ葉集三葉松ノ生ツキ  
ヲ吉備ナル山ノ名トモ成ナントアリヲホクモ邑久郡ノ  
リ吉備ナル山ノ名ハ備中松山ナリ

一但来日侍烏帽子ト云モイツレノ時ヨリ出来タルマ尋  
問トモ未詳ト春臺云ク職人尽ト云モノニ侍烏帽子  
ヲキタル人皆ニ高ノタクヒ也古キ世ニハイマシキ人ノキ  
タル物ナルヲ後ニハ士君子ノ冠服ニナリタルマト云リ

一春臺云三絃ノ溜声ヨリ是ニキハナシ近頃松平譜岐守殿

三絃ノカヒロウビニ葵ノ紋ヲツケ玉ヘテ殊ニヨク彈シ給フ  
葵ノ葉ヲハ御服ノ章ニ然ルヲ鞞ニハツクレトモ 鐘ニツケ  
タルヲナシコレハ 鐘ニ附タルヨリモ遠ヲトリタルヲナリ  
無下ニ口惜キ事ナリト云レタルト也

一春臺平家物語ノ小松殿教訓ノ段ヲ語ラセテ聞レシ  
ニ落涙ニ及ハレシ小松殿ノ詞ニ古ヨリ三公タル人ノ甲冑ヲ  
キタル事ナシト是 昔邦上世ノマノサマ見ツヘシ今ノ  
懸宮ノ狩ニ股引脚半ニテ出タマヘルヲ冠服ノ有無論

スルニ及ハスナケカシキ事ナリト云ヘリ

一春臺云日本古ノ邊備殊カ東北ニ備ヘタルト見ヘタリ今ハ  
西海ノ邊備アリモシ清廟女直ノ方ヨリ北海ノ眞羽ノ  
邊ヲ窺シニ其備ナキト然ルハカラスト云ヘリ

一老子ノ趣意ハ天下ヲ治ムルニアリ 莊子ソレヲ説クヘテ  
事ニ託メ云リ老子ハ空理ヲ云ヘルヲ莊子ハ段々ニ寓言セリ  
畢竟莊子ノ主意馬蹄眩筵ノ二篇ニ託クシタリコレ  
老子ノ注解ナリ 後世老莊ヲ知者少シ或ハ養生トシ或ハ

心法トシ又佛家ト雙テ視テ誤レリ祖莊子カ儒家  
ヲソシル処專仲尼ヲ説ルニアラスシテ孟荀ホノ仁義  
ヲ説ク者ヲ説レリヨツテ其本ヲ推テ孔子ヲ罪ス然レ  
トモ寔ニ仲尼ヲ貶スルニ非ス

一春臺云記事傳墓誌等ニ虚叙實叙ノ二ツアリタト  
ハ忠信恭謹ナト一通リニ云詞ハ虚叙ナリ一事実ヲアケテ  
云ハ實叙ナルナリアルヒハ其人ノ平生ノ嗜好文ハ事アル  
トキノ取扱事アルトキニ云タル 詞ナトニテ一條ニテモ其

餘ハ行狀ヲラシテ知ラル、一ナル是ヲ実叙ト云故ニ隨分  
實叙ナラサレハイカホトメテ虚叙シタリトモシカト  
隨此人ノカクスアリタルト云一知レカタクキ故実叙ヲ重  
スル一誌ト碣トハ文ノ體裁モワレリ誌ハ士中ニ埋モルモ  
ノ也華夏ニテ三月ヲ葬ル時其内ニ如何ヤウニ云ヘキ日本  
ハ旋葬ナレハ後ニ埋ムル地ノ動クヌ一ヲ忌ム故シクキ  
ナリ世人碑ト墓誌ト同シキ一ニ覺ヘタルハ大ナル謬  
ナリ徒弱ノ誌石ハ春臺著サレタリ神戸候ノ墓碑

ヲ書タマヘリ十三年目ニ碑出未タリ下ノ臺三重ニ  
ノ上ニ碑アリ碑ハ面ハ但末物先生ノ墓ト篆字ナ  
ホリタリ裏ニ神戸侯ノ文ヲホリタリト也

一春臺云加賀ノ國ナトハ葬地ノ山別ニアリ士大夫一構ツ、  
地取ヲシテ有シトナリ矢田山ト云也水戸ニモス井ソニ  
シ山トテ葬

一三年ノ喪ヲ行フ一吾邦ニテハ甚行カタキ一也近キ  
世ハ十日ノ俗忌ヲ甘ヘ待兼テ三七日ニテ出仕ヲ忌ヨ



リ命せラルモアリソレヲ臣タル人モ辱シト思フハ  
何ソマアハレ今モ裘服ヲ又ギテ出仕ヨトノ命ア  
ラントキ大ニ憂ヘナケカン人アラハセメテモノ事ナル  
ヘキ大カタソレホトノソエフ人モナキハナケクモアリ  
アル也ソレニツキツノ物語アリ三河國松平豊後守  
殿ノ側用人ニ祿二百五十石トナル人アリ父ヨリ朱子  
ノ学ヲ好テ其人モ專理学ヲ講ス此東都ニ扈從  
シタルトキ父國ニテ終リタリ俗忌三十五日フリニテ出テ

仕ヨト命せラル其夜忽自殺セリ遺書モナシ有司モ跡式  
ノ如何スヘキト思ヘリ春臺ノ門人吉田彦ノ中ナリ  
シカハ有司其人ヲシテ臺ニ怠ラ問シム春臺曰サテソ  
ハ平生何ソツフマキタルハナキカト問ルイカモシカリ支  
配下ノ者ニ俗忌ヲユルサルコトアルトキハサソ心外ト思ハレ  
ナシサレトモ公ノ用サシツカユル故ニ如此命せラルト云  
事也ト云タリキト語レリ春臺問テシカレハ彼人自殺シタ  
ル至リナリ今我身ノ上ニテ進退維谷ノ命ヲ公ノ恐レアル

ト思ヘル事欲ナケカハシキトナラスマタトヒ跡ノ一旦絶セ  
ラル、凡ラシムルニ至ルヘキヤトムレタリ有司其後春臺ノ意  
ノリトナル

一春臺云法律ノ一紀州ニハマリタリノ神魚無補ナトモ法  
律家ナリ今懸官モツレ故律ノ一シロシメシタリ然レ  
トモ律ノ今ト封建ノ世ニ行フ一ハ善アリ日本ノ風俗ニ  
テハマリ無骨ナル一ノマウナレト切テ捨スルト云ニテスム  
一ニイツサル管刑墨刑ナトノキハメアルユヘ法ヲ下スヨリ

登知テ此次ニハマウノ刑其次ハカマツノ刑何度コテ赦  
ト云一アリト高クク一テ一ツモ懲ル一ナシ是法家ノ耻ナリ  
語曰民可由之云

一春臺云姫路侯女ヲ待ルニ大宰ノ膳ヲ以テシタマフ一  
礼法ヲ蔑スル一其罪イハシ方ナシスヘテ近世諸侯ノ行  
儀無作法ナルハ心親ノ臣其人ニ非カ故ナリ側ノ者咄ト  
キノ君ナト誘ヒテ色ニノ悪徳ニ至ルナリ又小祿ヨリ卒然  
トシテ諸侯ノ封ノ嗣タル人悪徳多シ姫路神魚式部

大捕殿丹羽五高大夫殿有馬中務大捕殿内藤備後守殿  
トトノ活計所ニテ大名ノ子ヲスルヤリノ諸侯ハ居ナカラ  
物コト自由ナルニ好テ遊可ヘユクハイカナル事ソマ古ヘ  
礼樂征伐出自天子或ハ諸侯トトニ云リ今マ礼樂征伐  
芝居ヨリ出ツト云ヘシ三絃ハ天下ニ奪制スヘキモノナリ淫風  
ノミナトナリ礼樂ノ管箏ナトハカキナラス一ナリノ一箏  
ナトモ管ヲヒトツニシテ分タスマウニフクナリ淫樂ナトハ  
繁チナリトカクキノコトニ曲ラツママカナルホトカ面

白ノ人ノ心ヲトラカス也ウタヒノ類モ又然リサレトモ今世ニ  
ハ猿樂ノハマシ舞ハ雅ナルニ近シト云ヘキ歟

一 君修十歳斗リノ時ヨリ文ヲ自由ニ作レリ十三歳ニテ東  
都ニ来ル禎カ詩ヲ君修見テ之祥詩志ヲツクカル  
然ベカラス天下ニ無双ノ人物トナルヘキ哉ニモハヤ詩ナツハ  
コノ位ニテステ置タルガヨケレト云シトテ知言ナリト春  
臺詔ラレケルトナリ

一 瀧原ハ長門ノ大夫毛利筑後ノ家臣ナリ海西第一ノ文

一春皇稱セラレタリ殊謹厚ノ人ナリト也

一春皇云水戸義公備烈公ハ藩國中ニ勝レタル大豪傑ノ人  
名之烈公ナトハ燕昭王己未ノ人君ト云ヘキ也烈公モ  
國家創業ノ時ニマタリタマハ必礼乐ヲ作リタマフヘキ  
ニト云レケルトナリ

一徠翁ノ軍法不善書ニ答ラレタルハ水戸ノ支封大學及  
殿ノ大夫岡田彦右三門也則徠翁ノ門人ナリ

一ナルヘシ物語ハ徠翁ノムタ書ノ書付テマリシヲ何人

カナルヘシ物語ト名ヲ付タリ又板行ニ出タルニハ萩生  
三郎ヨリ所奉行ヘ届テ板本ヲウチ彼リタリ先年上州  
新田ノ辺古塚ヲアハキテ古語ヲ懸宮ヘ奉リシトナリ  
シニ其時光堂ノ故事ヲ聞カレシヨシ三才郎ニ命セラ  
レテ彼物語ノ中光堂ノ一條ヲ書ク奉リタルトナリ  
一木村弥十郎ハ西邸北邸廣式邸用人ナリ此人国初戦国  
ノ事跡ヲクワシク吟味セラレ武徳偏年集成ト云書  
ヲ著シ加納遠江守殿ヲ以テ献リ神祖一世ノ日記ナリ

極々吟味ツルノ明白ノ書也春臺序ヲ書シテ則春  
臺其序ヲ禎ニ自書ノ贈ラレシ也井伊直政ヲ兵部少輔  
ト申シタルノ天正十年ノ頃ヨリナリ此一水村氏(所尋  
問アリシカ其後江州竹生島ノ社ニ直政ノ文書アリシカ  
所取寄アリシカ天正十年兵部少輔トアリテ初メ言  
上セシ処ト符合ストテ其馮ヲ贈リシトナリ又編年集  
成歎セシトキ所撰美アリテ春臺詔ラレシナリ  
一春臺ハ甚算数ノ理ヲ窮ラレタリ中華ヨリ来ル書

算学洞悉算学啓蒙ヨリヨキハナシ日本ノ算書ハ古今  
算法ヨリヨキハナシ算ヲ以テスルノ其本ナリ算盤ヲ以テ  
スルノハ捷徑ニテ美ハ大ナル物ハ盤ニテハナラヌ奥州二本松  
磯村善兵衛ハ盤ノ名人ナリゲツキ抄ノ作者ナリ盤ニテ如何  
マツノノモナシツクセリ是ハ格別ノ枝藝ナリ中根元班ハ美ニ  
数学ニ妙ヲ得タル人ト也

一安平ノ儒者宇津官田由的日本ノ人物ヲ著シテ其中ニ  
中川瀬兵衛清秀ヲ切支丹ヲテノ人ナリト書タリヨツ

テ中川氏ノ有司官ヘコトハリテ板行ヲ絶シ由的ハ別条ナ  
シ後由的吉川氏ニ仕シト也

一徂来曰日本ニ節制ノ軍法ナシ皆武士ノハタラキニコレニ因テ  
鈐祿ヲ着セリ和流ノ軍ニナキテヲ着ケルト春皇カタ  
レリ

一相馬侯ノ家士ハ氏ノハケミツヨキ処ナリ毎年六月七日午  
頭天王祭礼ノ日野駒ヲ取ルトアリ此日家中七備ニシ  
テ甲冑ヲキテ出ル嚴重ナルナリ其取リシ駒ヲ直ニ天

王ヲ祠ヘ神馬ニ献セラルヨツテ家ノ紋トナル古来ヨリ  
ノ例ナリシトス

一春皇云武備ハ西邊ホトラロヒタリ近年常陸奥州  
ノ海上ニ唐船之来リタルハ其不備ヲ伺ミ心元ナシ古代  
蝦夷海ニコトノ外船業カタタ今テハ左モナキト南  
蝦夷ハ松前ニ接ス此蝦夷ハ女直隸鞞ナトニ接ス羽州ノ  
庄内ノ封地酒田ナトハ東國ノ地ナレ其北へ出ハリタル所ヲ  
佐渡ノ通リヨリモ北ナルヘシト思ハル佐渡ノ浦又ハ酒田ト

下總アリ三里四方アリセコニ立テ野的ヲ追出ス牧士馬乘  
リテ入テカエニ勢子ノ惣廻リヲソルニト乘廻ス次等セリ  
乘リ廻リ追ヨセノ所輪ヲ乘詰ル朝皆ニ自分ノ家ヨリ二三  
里モ乘リ大カタ益刻マテタク野ヤケニ輪ヲ乗ル馬少シモ  
ツカレス息モ不春臺モ見ラレシトナリ先年少出彦ノ  
公子ナト馬ヲ嗜好テ牧士ヘマシリテ乘リ至ヘリ松平専少  
此ノ紀州家臣ナリナトモ乘テ見ラレツルニ馬ヲ乗例セリ牧士  
シカ幕下ナトナリ充云ツルナト云ヘリ牧士ノ馬ハ平生荷馬ニモスル飼料ニ尊

ナリソレユヘマセテ都下ノ馬トハクテカタクシサレトモ健ナ  
ルナ右ノ通リナリ牧士ヲ預リシ人ハワタスキ某ト云ト  
ナリ

一春臺云子曰三子以我爲隱乎ト云々是ハ聖人ノ行ハ  
礼ナリ不言ノ教トハ礼ノナリ是ハ丘ナリトハ是ハ丘所以  
爲丘也ト云心ナリ聖人ノ教ハ詩書執礼ナリ中ニモ詩  
書ハ言也言ニ尽サルナリ残スナリ礼ハシヨナリワ  
サハ残スナリモ尽サルナリモナラヌ也 鶴林玉露ニ山苔ト

佛法ト此章ノ問答ノ一アリ今時ノクツミシタル腐儒ノ  
了簡ニ不及一ナリ此ノ面白思タレハゴフ羅大笠モ記シ置  
タルナラメ先ハ出スリ孔門ノ教ニ自慢ナトノ一ニ  
畢竟文アルニ君子ナリ文ナクハ忠信ノ人也未免  
為痴人。此章ハ但来ノ衆明面白シコレニ付学而篇ニ弟  
子入則孝出則弟行有餘ク則以学文トアルト違ト  
云不害ナリ学而テハステニ弟子トナル故ニ凡家ノ内ニ  
リテノ事也此章ハ孔門ノ教ヲナストノ事也

一釣而不綱此綱字侏翁ハ綱ノ字ノ誤ナリト云リ春臺云  
成ホト義ハ明ナリ然トモ陸徳明音杖ニ音剛トアリ学相  
似チマキラハシキ故ニ陸氏モ明ニ剛ト音シタルヲナレハ定ラ  
古来ヨリ誤ナルヘシソレ綱ト改ヌトナリ

一春臺云莫所ノ二字侏翁好テ用ラル毎有ト莫有トハサシ  
意タカフヲニテト云トモ侏翁ハ莫ハ無ナリト云レタリ  
莫有ハ左傳ノ中ニ所アリ莫有戰心ナト書タルハ莫ノ字ニ  
ハ下ノ意ナルニハタ、戰コフト云心カアラサル也無有戰心ト



書タルハ根カラ何モナキナリコレタカヒシ文選ノ中ニ檄文ニ  
莫所ノ事アリノ徠羽遺文言ノコレタカヒタル時モ此セシサ  
ク有リタルトナリ

一寛保二年正月廿二三日ノ頃ヨリ彗星見ル夜半東二月ニ至

テ稍ウスク中旬ニ見ヘス西川忠次郎ハ挽槍ト云入江

芑客ト云彗ニテハナシ事ナリト云人アリ然トモ彗モ事

モ同シキマ春秋二百四十年ノ中ニ事三度見ヘタリ漢書劉

向カ傳ニ彗トシルセリ古ハ別タサリシト見ユ

一天經成尚ニ九重天ノ一アリモト中華ノ天文ニナキナリ

弟一常靜天弟二宗動天其次曜天ナリ此常靜天ニ天主

ノイニスト云ヘキ為ニ設タル説ナラン明律ニハ私ニ天文ヲ

学フ事ヲ禁ス日本ニハ正朔ノ丁殷陽ノ正朔ヲ改メタニ

フ事聖人ノ智彗ニテ神道ナリ民ノ耳目ヲツケアヘサヒ

ル為ナリスヘテ代ノカハリメニハ民皆先代ノ事ニ率由ニ新

改ラ昔用サルモノ也夏ハ虜唐己未ノ法ニテ讓テ以テトナリ

タル天下ナル故先代ノ法ヲ改メス其モニテ用ラレタリ

殷湯ハ正シク征伐ヲ以テ天下ヲトリタマヒタル故此カハリメニ  
礼樂制度ヲ建カヘタマハヅシテハ前代ノ法ニ因脩スルノミ  
ナルヘシ前代ノ法ト云モ元來聖人ノ制ナレトモタトハ樂カ  
トキニ至リテハ高ノ法度ハトリ失ヒテ礼樂モクツレタル故ノ  
レテ因脩シテハ万民ヲ保永人ヲ保ツコトヲタス然トモ右ニ云  
コトク民ハ當今ニ新ヲ不用故先初ニ民ノ耳目ヲ付カヘシ  
為ニ正朝ノ政服色ヲ易ル也正朝ヲ改ルコトハ後代ノ了簡  
テ云ハ浅ハカナルコトノマウナレトモ先此正朝ヲ改ルカラハ何

ニモ改替サルコトハナキト云事ヲ天下ニ示ス為ナリ地道濶丑ト  
云コト何ノワケモナキ事ナラニ衆愚ヲスツルノ術ナリタトハ殷  
湯ニ正朝ヲ改クマラハ今マテ夏ノ世ノ人道ヲ用タル故寅ヲ以  
テ正朔カス是ヨリハ地道ヲ用ヘキ時節ナリ地ハ濶丑ニ丑ノ  
月ヲ正朔ト定ヘシト云コトヲタテ正朔ヲカヘタマヒタルヘシ氏共  
湯正ヲ午本ニシテ又此度ハ天道ヲ用ユヘキ節ナリトノ玉ヒタ  
ルナラン用ハ子ノ月ヲ正朔トスルニハ周ノ正月ハ夏ノ十一月ナリ  
ヲモテムキノコトハ皆コレヲ用ユル故王公ナトノ言語又史策

ニ書スルニハ時王ノ正ヲ用ユルヲ云ニ及ス但シ民間ニ内シマウキ  
ニハハリ殷ノ世ニモ夏ノ正ヲ用タリト見タリ夏ノ正ハ竟齊ノ  
定ノタセタル法ニテ万世不易ナルモノ也石ク如ク公私ヲタカ  
ヒアルトハ今ノ世ニモ金幣ナトニハアルトナリヲシ出シテハ時  
王ノ制ノ正朔ヲ奉スレ凡民間ニテ農業ノ時候ヲタカヘマ  
シキ為ニハ夏正起ルトナリキユヘハハリ私言ニ尚ナレタル夏  
時ヲ云タルト見ヘタリ春正月ノ論ハ朱子ナトモ千歳不  
決ノ論ト云ハレキ且外誰モ決スル人ナシ只東涯ノ辨其文意  
ヲ得タリト云シ論シタラスマウナリ

一伊与松山大高秀明ト云人適從録ヲ著シテ仁存ヲ毀  
ル一門生此書ヲ携テ仁存ニ見セケレハ笑テ少ノ怒モア  
ラヌ門人ノ云先生此書ヲ辨セヨ先生モ不辨テ辨之  
云仁存云我非彼是ナラハ我過改ヘシ彼非ナリトテ何ノ  
是辨ト答エシカハ門人モ大量ナルヲ感服シテ退シテナリコレ  
享保甲寅八月ノ一ナリト也

一丹仲龍云大日月ノ入リテ天学ノ業ヲウケタル老師兩度見タリト

云、此頃魄ノ所、マサシク見ヘタリ右ノ老師云天経或問ハ精  
書テ天学ノ書ニハ古人ノ未だノ一多シ然トモ又誤モ多カリ  
シ金水ノ二星ノ天文陰天ヨリ上ナリト云説右ノ通ノ太白月ノ  
下ニ見タレハ或問ノ虚説タル一明ナリト云ノ先夜マサシク  
見ナルニテ老師アサムカサルヲ知ラシムト語レリ于時明和  
七年庚寅六月ナリ此老師ノ姓大場氏名景則字号雷  
淵講諭信家之兵法俗称新藏金城并訛郷、從父  
ナリ

一孔雀樓筆記ニ高直ハヨメマスキ物ナレトモ此理ヲ知ラヌ  
気ツカヌ人多シト云一高田維享ニ如何問タルト問シニ  
大略ニテ云ハ直叙ノ書ニ一通リヨメ易シシカシ地理字  
義等ヲシイテセンサクスルハ解シカタシ是モ左傳ヲアラ  
タテニ云タル一ナルヘシ左傳ハ文長キユヘ一句一段トスミテモ  
大旨ノ所初学ノ人ニテハ上スヘリニナルナリト尾錦諾  
ラレシト也

一國書云易全ト筮書ナレトモ文子十翼ニ就此寓教タリ

一歐陽伊藤氏十羽異非聖作トハシタカヒ難シサレトモ一体ヲ  
合兵ユカス筈法モ本文ハカリヨミテ朱子啓蒙ニテ一通ノ  
スムサレトモ止當ノ義ナルヘシマイ、ブカシ考変占七條外  
左氏國語ニテ此モアリサレ氏ニタ四タ変ハ朱子推量ノ説ヲ  
不定春臺易占ニテハ六タ皆不變一タ変ユタ変六タ変  
只四ハカリ取用三四変ハ朱子ノ説無謂トテ不從別説ナ  
シ按ルニ三タ変ハ國語ニアリコレニテフムヘシニタ変四タ変モ  
古法アルヘキナリ考(キナリ)春臺ハ申王相ヲトク用

ラレシト見ユ断易天亦見鄙俗信用シカタシ何享易訂  
詁ニ掛レルノ説朱子ト異ナリ是允サレトモ大義ニアツアラ  
ス何分全体スマサル章句注釋モアマナリアルヘシ精義一  
諸家皆分精氣為ニ鄙見ニ對遊魄ノ精氣ナルヘシ精粹氣  
ト云ナラハシ如何

一奥州伊達郡高子村熊阪字右五門云子邦彦シノグラ屋後  
ノ山ノ岩間ニ取リテ園中泉石ノ間ニ植ルニ宜シトナリ植  
此ノシノグラ根ホリニシテ贈レリ又高賢ノ古城ノ瓦土中ニ

埋リシヲホリ出シテ贈リ試ニ右ノ如ク硯ニ用ルニ古雅ナルモノ  
也高子色伊達郡岩瀬郡信夫郡ヲ合テ信夫国ト云国府元  
ヤリ其ノ同造記ニアリト云フ和名抄ニアリト伊達郡ニ  
古信夫ナト云テ諸中ニ用ヘシト云リ

一春臺云字彙ハ洪武正韻ニ於テ韻ノ數ヤシ大マナリ  
今ノ華音ニ合ナリ故ハ今華音ハ色々ノ人マニワリ音古  
ノ韻ニ非ス故也古ノ韻ハ然ラスソレニ陸徳明傳教文  
古今韻會増補韻會ナソトハ古韻ナリ玉篇モ古ニ皆日本

ノ古ノ音ニ合ナリソレニ古書ヲ注スルニハ字彙ニ  
テハヨカラス玉篇陸徳明韻會ニテ音注ヲスヘシト也  
文雄意師寺住持ナリモ韻字ハ全ク春臺ノ教ニヨラレタルナリ小徳興  
龍語レリ

一伊勢松阪本店宜長古事記傳十五卷ヲ著ス此中首ノ卷  
ノ説ルニ聖人ノ道昔日本ノ道ト異ナルノ論アリ日本  
紀ハ全ク漢字ニ潤色シタル政古事記ヲ第一トスルナリ  
一尾張神祖ノ伺官吉見左京大夫源姓名ハ幸和正四位

下ニ叙ス尾州殊其ヨ封地ノ神藏ノ司ニ任ス代々寺社奉行  
ト同シク司ルトナリ此人歌ノ古キヲ好テ八十八ノ時大坂至  
リ契沖ニ見ヘ門人タラシヲ請フ契沖辞スレトモ固ク請フ  
自ラ側ノ見臺ヲトリテ契沖ヲ前ニ置テ書ノ講ヲ聞シ  
契沖モ大ニ悦テ著述ノ書ヲユフリタルトナリ豊龍詔レリ  
又吉見氏增益辨ト鈔俗解一冊頁ヲ著スト部裏俱ノ詔  
偽共許ホラ具ニ論断ス豊龍携ヲ来テ見セラレタリ  
一神祇破偽顯真問答一卷白川殿ノ字頭印井帶カ匣

雅胤ノ著述ナリ此書モト部家ノ偽妄ヲ論シ兼俱ノ  
姦誰ヲ弁セリ小篠生見ニセラレキ

一僧契仲諱空心本姓下川氏祖宜加藤清正ニ仕ヘリ父諱  
元金ト云ヘリ十三歳ニ僧トナリ大東ノ典籍ヲ博覧也  
殊方彙集ヲヨク治ハ西山茂公ノ方彙集纂注ヲ作ラセ  
タマヒシ時久固請レケレトモ固辞シテ不就於是乎撰代  
述記以献之總釈副ストナリ義公嘉其善解古言善  
釈古歌乃餽白金千兩緒三十匹以履謝也則瞻貪之一錢

尺帛ヲモ身ニ随ストナリ元録十四年ニ没ス晚ニ撰列妙法寺ノ任持トナリ後退隱シテ大坂ノ東郊圓珠菴ニ住ス著述ノ書漫吟集二十卷厚顔抄改觀抄勝地吐壞篇各二卷勢詔隱断四卷源註拾遺各所補翼各八卷總款二卷古今餘材抄十卷冲為人寬厚謙恭愛人行年六十三ニ没ス且并純碑銘ヲ作シリ又シツクニテ字ヲ顔字ヨリ字音ノ合ナルヲ吟味シテ國字ノ訓詁ニサリ万葉ノカナニカリ古キ書ヲヨミテ日本紀古事記ホニ及ヘリ又且部書既辨ヲ著シ宝

基本紀大和姫記等ノ詔妄ヲ論セリ

一羽倉弁宮ハ京師曼名山ノ人ナリ此山ノ祠官ニアラス古ヘヨリ三家アリテ此山ニ属セシ家系古キ人ナリ羽倉三家ノ中ノ一人ナリ契冲ノモトニ至ル契冲病褥ニ謁見ス冲悦テ昔二十年ノ字ナリトテ著述ノ書ヲ羽倉ニユル羽倉男子ナシ甥ノ藤之進左満ヲ養子トス弁宮ノ女一人アリ蒼生ト云ヘリ此女松蔭日記ヲ著ス梅沢家ノイラシルス左満ノ男藤藏御風ト云ヘリ今巨野ノ処士和歌ヲ備譽龍詔レリ



一岡部衛士幼名三四ト云遠州伊場村岡部邑ノ人ナリ瀨松ノ水  
陳梅谷市右門ノ養子トナリシカ諸侯ノ家臣僕隸ナトニ俯  
伏スルコトヲキラヒテ養父ト順ナラヌシテ彼家ヲ去ルヒト冷泉  
家ノ門人ナリ後存宮ニ學ヘリ加茂真淵トス衛士ナリ  
左満ト真淵二人シテ百人一首古説ヲ作ル真淵モ六七年前  
ニ没ス

一犬坂懷徳堂ハ概木町度屋橋筋東ニ入ル北側ニアリ懷徳  
書院ト云額アリコレハ三宅石菴ノ書ナリト云中井忠藏

諱ノ教授処ナリ官ヨリ此地拜領セシトナリ今忠藏ノ男  
善太名積善諸生ノ教授ス善太字ハ子慶号竹山善太ノ男  
名積徳倍和徳治トハ別宅ニテ長堀邊ニ住居ストナリ  
岡士瑄語ナリ

一三宅石菴ノ學問ハ倍間ニテ學問ト云ヘリ其言ニ云ク頭ハ  
朱子尾ハ陽明典鳴ノ声仁存ニ似タリ蒙山ノマタリカ  
ケマハルト香川太仲ノ語リケルナリ

一鈴木秋教曰但来先生ハ樂律ノ説阜見多シ然信用

シカタクイ一モマタ少ナカラス其琴学大意抄ニ調ヲ説  
クヲ見ルニ釋編并頌宮礼樂疏十トニ載タル正宮變角  
緊羽變宮清高ノ五調ヲ取出シテ是ヲ琴五調トシ日  
本古代ノ五調ニテ又昔邦樂家ノ五調ニモ配當シ一サ  
カレニ其説ノ主張セラレタリコレ大ナル率強杜撰也  
シキ事アリ何ントナレハ正宮ノ一調ハフコトニ正調ナレハ  
變角緊羽變宮清高ノ諸調ハ皆正宮調ニツイテ或ハ  
角ヲユルノ或ハ羽ヲシメナトシテカヘタル調ニテ即正宮調ノ

別調ナリソレニ此諸調テイツレノ琴書ニモ<sup>ニ</sup>外調ノ部  
ニ載タリ其角羽宮商ノ各ハ律ヲ變シタル絃名ヲ以テ命  
シタルモノニテ均主ヲ律名ヲ称スルニハアラス故ニ此諸調ヲ正  
宮調ニテラヘテ正調ノ五調トスヘカラサル一ノ分明ナリ又昔  
邦樂家ノ五調ニアリントテ順八逆六ノ法ヲ以テアハセントセ  
ラレシカ氏常法ニテ均主ノリカツフル時ハ合サルニ均主ヲ  
ハナシツキヨリカクハ強ヒテ配當セリ先ツイツレノ調ニモ主  
律ヲサシツキ他律ヨリツレスルトムコトハナキ一ナリタト

ハ宮音ハ宮ヨリ律ノヲコシテツヒスル故是ヲ宮音ト云シカレニ  
或商或角ヨリヲコシツイスル時ハ即是高音角音ニテ宮  
音ニアラス此マウヤル牽強仕撰甚多シ是全ク宮商  
角徵羽五舞トコトニクワシカラサルニハナリ五調樂ノ大  
本ナリ大本ヲアママリテハ其ヨハニテヨハスト國書  
聞タルト語レリ

一阿州吉田ノ郷垣巨邑ニ土御門帝ノ即陵アリ外ニ  
牛ヲツキタツシ中ニ石窟見ユル青キ石ノ碑ナリ文学教

殊ノ外多シ然トモ消テ不可読トアリ又讃州白峯ニ

崇徳帝ノ御陵アリ今ニ地ヒタト動ストニ 崇徳帝

怒ラセタゴフト云傳フ度ニ関ツトナリ。土佐ノ畑ニ列東ニテ

阿州ニ進シ土佐ノ南ノ海辺ハ八九十里ホトナリト云阿波

ニ讃岐モ知行高ハ同シケレトモ阿波ノ土地ノ廣サハ讃州ニ

三倍ナリト。尾張ノ城見太年記殊ノ外ニ嶮岨ナルヨシ讃州ハ

南北ニテ廣キ所共六里東西ハ二十里ヨモアリト備甲子位

庄邑龍昌院ハ讃州ノ人ナリシカハ詳ニ語レリ

一京都ヲ借屋カリノ人金ヲヒロヒタルヲ家主ワレニモ分得  
サセヨトテ訟ニ及フ板倉周防守殿判断シテ家主ワカタ  
取ヘキマウナシトナリ家主岡テ父伊賀居ナラハカクハアル  
マシクト云ケレハ聞テ父ノモトニ行テシカクノノアリ如何御  
計ヒアラシマト問ハルニツレハ時直ニヨルナリ予知ラスト  
答ラルシイテ問ハレシカハ其時伊賀守殿ノ云借屋カリ者  
人悪事ヲ仕出タル時其家主ハ少シモ事ニアワカラサル制度  
ニテアルヲメ其通ナラハ今ノ判断可然予所司ナリシ時ハ

不然必備屋カリノ人事ヲ仕出シタル時其家主其事奔  
走シキ然レハヨキトモ家主アツカルヘキト也ト云レシカハ周  
防守殿判断ナラレシト也

一丑山ノ長老輪番ニテ一人ツ、三年カワリ、對馬ニツル府中  
屋敷アリテ住居ス宗氏ヨリノマカチヒナリ又書記一人朝  
鮮ニ行テ居ル也三使来聘ノ時長老ツキ添テ又京ヨリ長  
老一人出迎テ關東ハ長老ハナリニ人行テ戻送リテハ戻リ  
ハ大坂迄二人附添ナリ 京都ヨリ出迎タル長老ハナリ送リ

ヲ對馬ニ至リ此聘事ニアツカリタル長老ハ一世銀百石ノ  
縣宮ヨリ下サル書簡往復ノ事室所家ノ時カノタル古  
例ナリシ故 徳川家モ此例ヲ用サセラル長老六十歳ヲ  
レハ對馬在番免サレシトシ釋江西ノ詔ナリ又江西肥前平戸  
ニ遊シ時高山ニミルニ能クハレタル時ハ朝鮮ノ山ヲミルト  
ナリ

一癸未ノ春朝鮮ノ使僉司仲奉玄甲申未聘トシテ對  
馬ニ来リ大夫多田主計ト用詔ヲハリテカヘルトキ主計詩ヲ

ヲ送ケル奉玄詩ハフルノカシトタワフレテ和歌ヲヨミ  
タリ

アスハマタ誰ナカラシモ知ラ又身ニ友アル今日ノ日コソヲシケレ

一此物語ノ播州室津ノ惣年寄吉田彦太夫ト云ル者ニ對馬  
人ノ詔リケルト彦太夫牛窗ニ来リテ云タルト也

一本阿彌好悦進衛座公ノモトニ暇進ス公曰義光ト正徳ノ  
カ比ヘミルニ正宗大ニマサレリト好悦ハ義光スクレタリト論  
スレトモ公用玉ハス程ヘテ好悦申スハ家隆ノ歌ニ朝日サス

高根ノ深雪空ハレテ立ニ及ス富士ノ川キリト云ハ如何公云  
スクレテ面白シ田子浦ニ打出テ見レハ白妙ト赤人ノ歌ハ  
如何公面白トハナケレトモタケ高シ好悦申スハ朝日サスノ歌  
ノ面白キハ正三ノ刀ノタテナル所ナリ田子浦ニ打出テ見  
レハト云タケタカキハ義光ノキタヒナリト云大ニ尤ナリト心  
服シタマヒシトナリ

一安永八年七月士藩儒宮戸部助止郎名良熙字厚山号  
本存居人年ヲ以テ凱州豊宮崎ノ文庫ニユキ又京師ニモ

至ル帰路園山ニ過リテカ散舎ニ来ル予故有リテ相見セス依  
テ筆談シテ尚ヒシニ山崎闇舂小兒ノ時比叡山ニ在リシヨ  
シ花園ノ中大通院ノ住持湘南湘南上州ノ園主  
忠義朝臣翁ノ弟子セラルト  
品ニモ湘南同行シテ来リ土加ノ吸江寺ニ此寺モ湘南  
任職アリシツカレシカ  
勤學見出精シ他人及難カクシトナリ英菴ヲ世ノ人モ称シ  
ケルトナリ此頃谷時仲モト一向宗ノ僧士州中浦新来寺ノ住持ナリ  
シカ聖今道ヲ尊ヒ土州家中ニ住シテ後還俗大夫  
野中傳左門博良號  
号葉山ナト後學シ時中ノ谷三助号闇舂此頃絶  
藏主ト云リ傳左門三人同志ニテ研六躬セシトナリ闇舂モ博覽

ニテ允王ノ道尊ニ還俗ノ志アリシカハ傳右門下倉原右門者  
引ナトスノテ還俗シ山崎彦右門致茂ト改名シテ意師ニ至ル  
傳右門録一万余石故アリテ此家餘スト也土州ノ法令ハ皆傳右門カ  
定メトナリノ國人モ大服セシトナリ一併諸族ニ容事シ後箱葉  
石見守殿ヲ招テ彼家ニ傳講シ石州事アリシ後ハ伊与ノ某  
族(仕フトナリ)

一土州ニテ鯨ヲ取シテ問フニ土州ニテ東ノ海邊ニツ推名崎  
濱厚津西ノ海邊ニ定津ヲ取リシトナリ皆紀ノ能ノナト

ニテ取リシト同シキナリ鯨方ノ有司ノ士兩人東西ノ所々  
ヲ代ルルニ同サトリシトナリ

一土州ハ貞定挽ノ一ノ問正月十三日ヨリ此時大夫万石以上三人  
ハ采邑住居セシカ年賀ニ出府シ直ニ十二日ヲ在府ストナ  
リ三人ノ大夫土居取ト称ス勇一深因幡祿一万余石サカツノ領  
主ナリ高智ヨリ八里勇二山内源藏祿八千石宍毛ノ領主  
ナリ高智ヨリ西四十里勇三丑藤外記祿三千石アキノ領  
主ナリ高智ヨリ東十里但シサカハ宍毛ノ二所ハ全ク城郭

ナリアキハ城郭ニハ非ス正月十日ハ来初アリ土佐侯モ  
甲冑シタマヒ国士残りナク甲冑テ大キノ門テ勢揃ア  
リテ市中ヲ軍勢残ラス武者押シクリ郷士八百騎アリ  
各新聞ノ田地三千石ヲ賜ルレ長曾我部氏ノ家人ノ  
子孫ナリ郷士モ家老ノ組ニ属セラレシトナリコレモ十日ハ  
武者押ノ列加ル

一土列ハ東西百里南北三十里又十五里二十里ナル所モアリ  
トナリ國土ノ祿寛永中以前ヨリ仕シ家ハ地方ニテ知行ス

家ニヨリテ六ツ物成ヨリ九ツ成モ至ル人アリ寛永以後ニ  
出シ家ハ藏前テ四ツ成ヲ下カルトナリ

一紀貫ノ土佐守任ヒラレテアリシ地国府邑トテアリ今其屋  
敷アトニ石スヘノミ残りシト土佐日記ニアリシ地名今ニ存ス也

一土列南海ニ臨ノ國ニハ異國船ノ来リシ乎庶ノ備アリ南海  
ハ至テ荒海ニ古ヨリ船軍ホリトハ聞ヘス宝永中ニ琉球人漂  
著ス宝曆中モ又琉球人漂著ス此時薩島ニ送ラレシトシ  
往古呂宋船ノ漁着アリ近年モ紅毛船ノマウナル船来リシカ



甲速カヘリシカハ詳ニ知レス戸部氏近年漂着セシ琉球人  
會テ中山傳信録ヲ以テ彼國ノ一ヲ問ニ十九卷合テ南嶋志ニ  
ハ少シツノ違ナリヲ練習ノ琉球ノ聘事記ニ彼国歌ヲ任セラレ  
シモ少シツノ違アリト覺テト也

一戸部氏ノ門人ニ細川半藏名頼直字方卿号丘陵戸部氏ト  
同行シテ予カ故舎ニ來ル此人天学ニ精シキ人ナリシカ  
ハ天学ノ書ノ一ヲ筆談セシニ西洋ノ曆教ハ甚聖人ノ  
道ニ肖タルナリ併天経或問ノ附録天学名目妙等

シルセシ如ク紅毛ノ道ハ不可取曆教ハ可取トアル如ク西洋及  
タル所四十二国中ニナキナリヨツテ西洋流ヲ学フハヨ國ノ  
算曆ハ取ニタラス天経或問ハスヘテ天学ノ大理ヲ解キシ書  
ナリシカハ曆術ノ詮議ハアラヌナリ。土勅ニテ曆学ヲ始テ  
セシハ谷丹三郎ナリコレハ東都ノ天門生院川氏ニ学フト  
ナリ谷氏ノ門人川谷貞六ト云人アリ此人南海曆訣授ト  
改旋曆書等ヲ著シ又起元演段ト云等書ヲ著ス其  
門人斤田武次郎即細川生ノ師ナリ武次郎傍通曆五緯

曆天元算法等ヲ著ス又私ニ習書ト云モノヲ著ス凡五十卷ホ  
業ヲ卒ヘス今四十卷ハ出未セシトナリ

一叔卿云意師天文算術ニ精シキハ村井中斷曾我部式部村  
林勘解由西村千介ハ西五仲ナリ今現在ノ人ナリ中根文聖門  
元姓ハ門人三千人往古ヨリ珍シキ人ト今ニ称セリ皇和  
通曆古曆使覽其外著述多シ文聖門子ヲ安之亟ト  
云ノ其子新セト云妹一人アリ此女天元算術ニ達セシトナリ  
新セノ子某今京師ノ銀坐ノ役人ナリ元姓ノ工夫セシ器經

天戈ト云フアリ天運ノ理ヲ誠ニレモノナリ此器其餘ノ著  
述此孫女トモトニアリトナリ

一叔卿云馬天儀ト名ヲ付シ器意師遊字中ニ工夫シ一ツハ土佐侯ニ  
献シ今一ツハ神皇大綱言殿好セ給ヒシカハ献セシトナリ又馬  
天義記四卷ヲ著ス馬天儀大キサハ高七尺見付横四尺幅  
二尺二寸アリコレハ圖ヲ著シテ大儀ヲモセシムヘシトナリ圖  
ナレハ詳ニ知レカタシトナリ叔卿云夫セシ日晷二品アリ一品ハ磁石  
ヲ用スシテ其日晷ニ依リ南北モ時刻ニ知ルナリ其制ハ何ノ

トモナノ大ラ逆ニシタル物ニテ其中ニ北極モ黄道赤道モ天ノ  
マニ備レノ其時刻ヲ見ルニハ一ヶ所日影ノ通リシケル所ア  
リテ黄道赤道時刻ナトノ筋ヘアタリケルヲ二十四氣ニ  
ヨツテ東西南北時刻ホ分リケルトナリ

一叔卿ノ師ナリシ斤岡氏ユ夫ノ日晷四品アリ其中一ツ昼夜  
トモ用日晷アリ夜ハ星ヲ以テ時刻ヲ知ルナリ其星ニ別ノ  
習モナシニ三星ヲシリテ後其星ヲ目當ニ倒リタル故天  
文ヲ知サル人モ用ラルトナリ

